

令和3年度市町村保健事業担当者研修会開催レポート

開催日・会場 令和3年4月26日（月）埼玉会館

今年度の研修会は、『高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施』をテーマに、埼玉県保健医療部国保医療課、埼玉県国民健康保険団体連合会と共催で開催したところ、県内56市町村から118人、県から8人、在宅保健師の会から1人、計127人の職員が参加しました。また、令和2年1月開催予定だった全体研修会が緊急事態宣言により延期となったことから、“2回分”として1日の開催となりました。

<午前の部>

○説明①『データヘルス計画・高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施について』広域連合

保健事業の初任者向けとして、第2期高齢者保健事業実施計画（データヘルス計画）改訂版と、一体的実施の概要について、後期高齢者医療広域連合職員による説明を行いました。

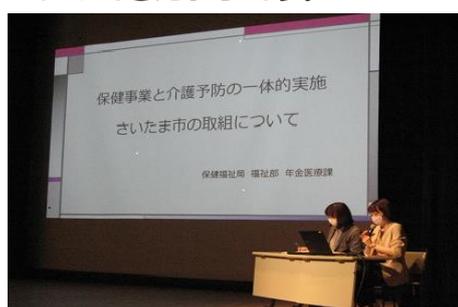
短時間では説明しきれない部分もありましたが、データヘルス計画については初めて説明する機会となりました。

○一体的実施の取組の事例発表：さいたま市・加須市・長瀬町

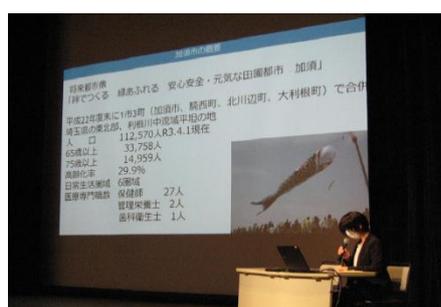
令和2年度から一体的実施に取り組んだ、規模・実施体制の異なる3市町に事例発表を行っていただきました。今回、事例発表を楽しみに参加された方も多かったのではないかと思います。

アンケートでは、これから一体的実施をスタート、または実施に向けて検討中の市町村の方にとって、庁内の連携体制など参考になったとの声が多くありました。

また、新たに企画調整の医療専門職として配置された方にとっては、発表を聞いて事業のイメージができたようです。



さいたま市 年金医療課
中島里奈さん・池田菜穂さん



加須市 いきいき健康長寿課
栗原香さん



長瀬町 健康福祉課
新家美奈さん

事例発表をきいて 参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

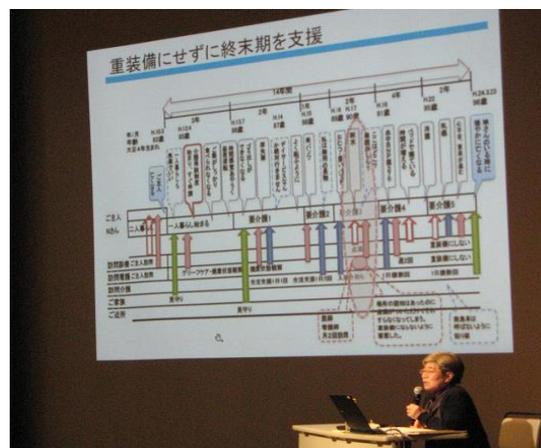
- 取組の進め方や庁内連携など、事例を通してイメージができ、スケジュールや関係機関との調整等が見えてきた。持ち帰って検討するのに役立つ内容だった。
- もう少しじっくりと話を聞きたかった。「取り組みやすいところから！」の言葉に勇気づけられた。
- 庁内連携の重要性を改めて感じた。今後関係課と理解を深め、既存事業の洗い出しを行いたい。

<午後の部>

○講演『地域で高齢者の健康を支える～暮らしの保健室での試みから～』

株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション 暮らしの保健室 室長 秋山正子氏

2019年、顕著な功績のあった看護師等に贈られる「第47回フローレンス・ナイチンゲール記章」を受章された、暮らしの保健室の秋山正子室長を講師に迎え、ご講演をいただきました。訪問看護という個別ケアを実践して見えた「地域包括ケアシステム」について、事例を交えながらわかりやすく講演をしていただきました。終末期ケアの話は、仕事だけでなく自分自身の家族のこととして、考えさせられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



暮らしの保健室 秋山正子室長

講演をきいて 参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- 地域づくり、介護予防には、人と人のつながりが大切だと感じた。
- 健康寿命の延伸の先を見据えたまちづくりのために、一体的実施を進めながら地域のニーズを把握し、行政として発信していきたい。住民の主体性を、関わりの中から引き出したり、自治会への働きかけ、ケース勉強会で住民と共有することが地域包括ケアのベースになっていたことが参考になった。
- 貴重なお話は先生のお人柄を感じることができ、主体的な地域の取組の大切さを理解できた。
- 地域ごとの特性や対象者の生活環境に合わせた支援を行うことによって、重症化を予防するだけでなく、いきいきと最期をむかえられる。「重装備しない」というワードが印象的だった。

○説明②『国保データベース（KDB）システムの操作方法及び国保連合会が行う支援について』国保連合会

一体的実施の取組に欠かせないKDBの活用について、国民健康保険団体連合会保健課 調査研究係の松本係長が説明を行いました。KDBについては、うまく活用できないといった声が多く寄せられていましたが、説明を聞いて「触ってみよう」という気持ちになった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

一体的実施は、地域の高齢者の介護予防・健康づくりのための制度です。広域連合は、市民に身近な立場で保健事業や介護予防を実践している市町村、県国保医療課、国保連合会と連携し、一体的実施を推進してまいります。